

全事業評価に係る委員からの意見一覧

NO	事業番号	意見	市の対応
1	60	「情報化社会への対応」に関して、学校施設にインターネット環境は整っているのか。	担当課に確認したところ、市内全小中学校にインターネット環境が整備されていますが、繋がりにくいことがあるため、通信環境の増強を予定しています。
2		<p>コロナウイルスにより、実施できなかった事業の評価に際し、ABCD評価区分のほかにも「評価不能」の区分の追加が必要でないか。D評価は廃止・統合が該当するのではないか。</p> <p>また、コロナウイルスにより事業が未達であっても可能な限り対策を施したものについてはB評価となっているが、各事業で事業の何%まで実施できたのかを明らかにする必要があるのではないか。</p>	<p>事務局として評価不能を含めて「D」を設定しています。経年での推移を把握するため、事業が未達であっても可能な限り対策を施したものについては、Bとしたものです。</p> <p>また、D評価となった事業は、その内容をよく精査した上で、翌年度以降継続するか、廃止・統合するかを含めて検討します。</p> <p>なお、進捗率の表記についても検討しましたが、相談・連携・給付・補助などの事業は、進捗率の把握が難しいことから、見送ることとしました。</p>
3		事業全般に関して、リモートの活用をさらに検討してはどうか。座学の研修や情報提供など積極的に取り入れて欲しい。	<p>リモートの活用について、全庁的に推進していきます。</p> <p>代表的なものとして、子ども家庭課では、おやこ安心相談でリモート相談を活用しているほか、児童館・児童センターではオンライン講習会を行っています。</p> <p>また、保育課では、合同就職説明会を実施し、今年度は保育士研修においても活用する予定です。</p>
4	60 16	<p>「情報化社会への対応」に関して、小学生は小学生の範囲のドリルを、中学生は中学生の範囲までしか利用できないが、児童や生徒の学習の進捗度合に応じ、中学生が小学生の学習範囲を復習できるなど横断的な活用ができると更によいと考える。</p> <p>関連して、6「夏休みの学校開放による「夏休み子ども教室」事業」に関して、市内の一部公民館ではWiFi環境が整っていない。児童一人に一台タブレット端末が行き渡っていたとしても、そうした子どもの居場所である公共施設のインターネット環境が整備されていなければ、活用ができないのではないか。</p>	<p>担当課にフィードバックしました。、タブレットには小学校1年生～中学校3年生までのソフトがインストールされており、中学生が小学生の学習範囲を復習できるため、周知を働きかけます。</p> <p>次に、中央公民館、北部公民館、東部公民館、初石公民館、南流山センターでは、携帯キャリアのWiFi環境が整備されていますがご利用場所が離れている場合、繋がりにくくなります（東部はau除く）。</p> <p>また、おたかの森センターと東部公民館には指定管理者の自主事業としてwifiが整備されていますが、ご利用場所が限られています。</p> <p>委員ご指摘のとおりですが、wifi環境の整備には、セキュリティの確保（ハッキング）が難しく、大きな課題であると認識しています。</p>

NO	事業番号	意見	市の対応
5	129	「居宅訪問型児童発達支援」に関して、利用者が0人であったためD評価とのことだが、もっと周知を行ったら利用者がいたのではないか。情報をサービスと必要とする人に届けることが必要でないか。	この支援の対象者は、国の基準で定められており、支援施設への通所が難しい重度の障害を持つ児童を対象としています。 児童発達支援センターの療育相談を利用している児童にその対象者がいれば、個別に案内をしていますので、広く周知をするというような性質のものではありません。 また、傾向としては「子どもを外に出したい」という意向が強い家庭が多いため、たとえ対象であってもこの支援の利用につながらない場合があります。
6	112	「障害児保育」の活動指標について、公立保育園は実施園数を記載しているのに対し、私立保育園は受け入れ児童数を記載している。公立も児童数を記載したほうがよいのではないか。	修正しました。
7	112	「障害児保育」の活動指標について、私立保育所の受け入れ児童数から小規模保育事業所の数が除かれているが、小規模でも受入があるため数値を追加してほしい。	修正しました。
8	10	「地域子育て支援センター」について、施設ごとに利用者数のばらつきが生じている。そうした現状に対する課題や次年度の取り組みを盛り込んでいただきたい。	修正しました。
9	11	「保育所の多機能化」について、この事業は園開放のみに限定するものではない。地域相談など保育所の規模に応じた様々な取り組みを実施してほしい。	修正しました。
10		事業評価シート全体について、専門用語が多く、市民目線で内容をみると何が書いてあるのかがわかりにくい。 評価シートはより市民が理解しやすいような見え方を検討していただきたい。	来年度に予定している第2期子どもをみんなで育む計画の見直しに合わせて、専門用語をなるべく使わないよう、市民がわかりやすい表現を増やします。
11		こうした取り組みの広報、周知に力をいれて欲しい。	事務局としても広報、周知は重要なことと認識しています。 これまでは、ホームページや広報ながれやまで周知を図ってまいりましたが、今後はLINE公式アカウントも活用してまいります。
12		全事業の個別意見について（後日提出分）	担当課へフィードバックしました。